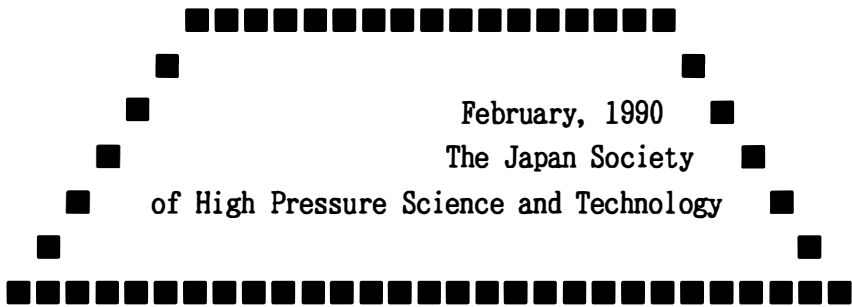


日本高圧力学会  
ニューズレター

No. 1 創刊号

1990年2月22日

□高圧科学技術の飛躍的發展をめざして	蒔田 董…………… 2
□祝辞 ○日本高圧力学会に期待する	田丸謙二…………… 3
○日本高圧力学会の発足を祝って	金澤 武…………… 3
○日本高圧力学会の創設を祝って	藤城郁哉…………… 4
○日本高圧力学会の発足を祝して	城野和三郎……… 5
□高圧討論会30回の歩み	…………… 6
□設立総会および第1回総会報告	…………… 8
□第30回高圧討論会報告	庄野安彦…………… 8
□第31回高圧討論会の開催にあたって	久米昭一…………… 9
□重点領域研究“地球中心核”発足	八木健彦……… 10
□次世代大型X線光源研究会WGSGから	辻 和彦……… 11
□掲示板	…………… 12
□事務局案内	…………… 14
□日本高圧力学会への入会のご案内	…………… 16



February, 1990

The Japan Society

of High Pressure Science and Technology

## 高圧科学技術の飛躍的發展をめざして

会長 蒔田 董

昨秋、木々が色づきはじめた杜の都仙台で開催された第30回高圧討論会のなか日に、設立総会が開かれ、「日本高圧力学会」が発足いたしましたことは、研究者の積年の夢でもあり、まことにご同慶のいたりであります。

言うまでもなく、圧力は温度とともに自然界を支配する基本的な環境因子であり、圧力を高くした状態での物質系の挙動は学術的に興味があるとともに、工学的に応用範囲の広いものであります。わが国の高圧力に関する研究には70余年の歴史がありますが、多くの研究者が一堂に会し、キメの細かい討論を通じて切磋琢磨の場となりましたのは、昭和34年に発足した「高圧討論会」であります。当初は発表件数20件ほどの小会合でしたが、年を追って素晴らしい研究が寄せられ、異分野の研究者が圧力効果の観点から議論し、他分野から学び、また異分野間の共同研究や新しい境界領域の開拓の萌芽となりました。昨今では200件を超える研究発表があり参加者も400名に達し、世界でも他国に例を見ない盛況ぶりであり、研究成果は国際的にも注目されております。過去30年にわたる伝統の上に、さらに飛躍的發展と工業界への成果の普及をめざして、新しい学会が誕生したことは喜ばしいことでもあります。

学会の発足にあたり、早い時期から圧力効果に注目され、高圧力に関する科学技術の発展に貢献された先輩の諸先生方に感謝するとともに、高圧討論会を育てていただいた日本化学会をはじめとする30に及ぶ学協会、研究費や補助金を通じて協力をいただいた諸官庁ならびに諸企業に心よりお礼を申し上げます。あわせて、高圧機器や周辺計測器の設計・製作・供給に尽力いただいた方々のご恩も忘れることはできません。また、この2年間にわたり学会の在り方や方法論を、手弁当で熱心にご討議いただいた産・学・官を代表する working group の方々の蔭の努力にも深く敬意を表します。

学会の価値は過去の歴史や設立の過程ではなく、「これから何ができるか」であります。「学会ができて良かった」、「学会に入った値打があった」と言っていたような各種行事を進めたいと思っております。学会としての基盤の確立と効率的な事務局の整備に微力を尽くす所存でございますので、会員各位のご鞭達・ご援助をお願い申し上げます。

本ニューズレターの創刊に当り、諸学会並びに城野先輩より丁寧なお祝辞を頂きました。新しい学会にとって何よりの励みであり心よりお礼申し上げます。

## 日本高圧力学会に期待する

(社) 日本化学会会長 田丸 謙二

今世紀は人類が飢餓に向かっている恐怖と共に迎えられた。チリ硝石の掘尽くしと人類の人口増から来る食料難の恐れを見事に克服したのがハーバー・ボッシュの高圧下での窒素固定であり、高圧技術の幕開けでもあったことは良く知られている。高圧下で初めて進む重要な化学反応は枚挙にいとまがないし、物質の性質も高圧にして構成原子間の距離が縮小すると驚くような変化をすることも少なくない。科学・技術の上からも非常に興味ある沃野であることは間違いない。

それだけでない。最近、常温核融合だの、常圧下でのダイヤモンド合成だのアッと驚く話が飛び出してくる。高圧機械を使わないから高圧と無関係かと思うと大間違い。virtual pressure として膨大な圧力下での話である。丁度鉄の窒化物を作りたければ、鉄の上でアンモニアを分解すれば良いのと同じ話で、ダイナミックな系では律速段階の所で超高圧 ( $10^{20}$  気圧以上) が簡単に作られる。ダイナミック高圧 (私の造った新語) という新しい高圧科学の部門の幕開けの訪れではないだろうか。



## 日本高圧力学会の発足を祝って

(社) 日本高圧力技術協会会長 金澤 武

日本高圧力学会が平成元年10月に目出度く発足されましたことは誠に喜ばしく、関係各位の長年の努力の賜とお祝い申し上げます。

私共の協会は、創立以来昭和62年度まで「高圧科学技術研究委員会」を設置しており、その間国際セミナーの開催など高圧科学の普及に微力ながら尽くして参りました。また、「日本高圧力技術協会・科学技術賞」の対象として高圧科学関係の論文も受賞対象とするなど、高圧科学の普及に及ばずながら微力を尽くして参りました。また、一昨年創立25周年を迎えた際に、

## 日本高圧力学会発足を祝して

第1回高圧討論会準備委員長 城野 和二郎

日本高圧力学会が設立されましておめでとうございます。

皆さんのお骨折りに感謝すると共に、これを契機としてこの分野の学問技術が大きく進展することを信じ、またそれを祈ります。

そもそも京都大学の堀場信吉先生が欧州に留学されていた大正の中頃は、空中窒素の固定によるアムモニアの合成が先端化学工業として華々しくデビューした頃で、先生はそのためか高圧に非常に興味をもたれ、ご帰朝のとき高圧の計器など持ち帰られたほどでありました。しかしいろいろな事情で京大物化で本当の意味の高圧の仕事が始まったのはかなり後になって、帰山亮君や久米泰三君（のちに徳島大学）らによってでありました。帰山君亡きあと私が兼任教授として京大物化を引き受けたのは昭和三十三年はじめてでありましたが、そのころは教室は高圧一色でありました。私は自分では高圧関係の研究をしたことはありませんが、これを育てていくことは私の責務でありました。

その頃は日本化学会の手伝いをいろいろしていましたので、化学会の中に高圧討論会をつくり、この方面の日本の研究者を集めて討論し親睦をはかるならば必ず斯界の発展に資することができるであろうと考え、学会に申請しました。当時大杉治郎君は米国に留学中でありましたが、有機化学教室後藤良三君のご援助があって実現したわけであります。

最初第一回の討論会は京大の楽友会館で開いたのでありますが、反応、物性、装置など高圧の全ての分野を合わせても一つの教室の研究発表会ぐらいで、一日で済みました。それでも二回三回と続いて京大でやり、それ以後は各大学にお願いして続けているうちにだんだんと発展してきて今日の盛会を見るようになり、学会設立にまでなりましたことは喜びにたえません。最初よちよち歩きの頃、京大化研の竹崎嘉真さん、徳島大学の久米泰三君、東北大学の鳥海達郎さん、岩崎廣次さん、東京工試の内田熙君、神戸製鋼の安並三男さんをはじめ多くの方々に色々お世話になったことを思い出します。

日本高圧力学会の今後の発展を心からお祈り致します。

## 日本高圧力学会発足を祝して

第1回高圧討論会準備委員長 城野 和二郎

日本高圧力学会が設立されましておめでとうございます。

皆さんのお骨折りに感謝すると共に、これを契機としてこの分野の学問技術が大きく進展することを信じ、またそれを祈ります。

そもそも京都大学の堀場信吉先生が欧州に留学されていた大正の中頃は、空中窒素の固定によるアムモニアの合成が先端化学工業として華々しくデビューした頃で、先生はそのためか高圧に非常に興味をもたれ、ご帰朝のとき高圧の計器など持ち帰られたほどでありました。しかしいろいろな事情で京大物化で本当の意味の高圧の仕事が始まったのはかなり後になって、帰山亮君や久米泰三君（のちに徳島大学）らによってでありました。帰山君亡きあと私が兼任教授として京大物化を引き受けたのは昭和三十三年はじめてでありましたが、そのころは教室は高圧一色でありました。私は自分では高圧関係の研究をしたことはありませんが、これを育てていくことは私の責務でありました。

その頃は日本化学会の手伝いをいろいろしていましたので、化学会の中に高圧討論会をつくり、この方面の日本の研究者を集めて討論し親睦をはかるならば必ず斯界の発展に資することができるであろうと考え、学会に申請しました。当時大杉治郎君は米国に留学中でありましたが、有機化学教室後藤良三君のご援助があつて実現したわけでありました。

最初第一回の討論会は京大の楽友会館で開いたのでありますが、反応、物性、装置など高圧の全ての分野を合わせても一つの教室の研究発表会ぐらいで、一日で済みました。それでも二回三回と続いて京大でやり、それ以後は各大学にお願いして続けているうちにだんだんと発展してきて今日の盛會を見るようになり、学会設立にまでなりましたことは喜びにたえません。最初よちよち歩きの頃、京大化研の竹崎嘉真さん、徳島大学の久米泰三君、東北大学の鳥海達郎さん、岩崎廣次さん、東京工試の内田熙君、神戸製鋼の安並三男さんをはじめ多くの方々に色々お世話になったことを思い出します。

日本高圧力学会の今後の発展を心からお祈り致します。

## 高圧討論会30回の歩み

回	年月日	場所・会場	準備委員長	特別講演者
1	S. 34. 11. 11-12	京都・京都大学	城野 和二郎	岩崎 廣次
2	S. 35. 11. 10-10	京都・京都大学	城野 和二郎	井本 立也
3	S. 36. 11. 9-10	東京・東京工業試験所	加藤 順	
4	S. 37. 10. 25-26	仙台・日立ファミリーセンター	鳥海 達郎	箕村 茂
5	S. 38. 11. 7- 9	大阪・大阪大学松下会館	井本 立也	安並 三男・竹崎 嘉真
6	S. 39. 8. 19-20	徳島・徳島大学学生会館	久米 泰三	大杉 治郎・平田 稔
7	S. 40. 10. 21-22	洞爺湖・洞爺湖リゾートホテル	武谷 愿	水野 五郎
8	S. 41. 10. 6- 8	神戸・摩耶観光ホテル	安並 三男・城野 和二郎	今井 祥太郎・鳥海 達郎
9	S. 42. 10. 5- 7	名古屋・産業貿易館	野田 稻吉・内田 照	高木 豊・津田止才次・西原正夫
10	S. 43. 9. 18-20	京都・京都會館	大杉 治郎	B. Vodar・D. M. Newitt
11	S. 44. 10. 24-26	仙台・県民會館	岩崎 廣次	鈴木 啓三
12	S. 45. 10. 4- 5	広島・中国新聞ビル	辰本 英二	尾野 馨・頼実 正弘
13	S. 46. 10. 12-14	東京・東京大学教養学部	秋本俊一・箕村茂・小寺嘉秀	秋本 俊一・橋口 幸雄
14	S. 47. 10. 23-25	大阪・科学技術センター	小泉 光恵	S. D. Hamann・黒田 緑郎
15	S. 48. 10. 19-21	福岡・電気ビル 電気ビル	高柳 素夫	蒔田 董・若槻 雅男・竹村 哲男
16	S. 50. 12. 1- 2	名古屋・産業貿易館西館	三井 寿雄	上田 良二
17	S. 51. 10. 1- 2	札幌・共済ビル	斎藤 肇	中条 之保・下地 光雄
18	S. 52. 11. 24-26	京都・伝統産業會館	竹崎 嘉真	大矢根 守説・岩崎 廣次
19	S. 53. 10. 24-26	仙台・宮城県婦人会館	岩崎 廣次	荻野 義定・松井 義人
20	S. 54. 11. 14-16	神戸・兵庫中央労働センター	蒔田 董	安川・山口・小泉・竹崎
21	S. 55. 10. 15-17	東京・野口英世記念會館	秋本 俊一	田沼 静一・斎藤 進六
22	S. 56. 11. 17-19	広島・広島商工会議所	藤原 浩	頼実 正弘
23	S. 57. 11. 18-20	京都・京都国際會館	大杉 治郎	浅野・福長・稻盛・浜野
24	S. 58. 11. 10-12	福岡・電気ビル 會議室	田中 満	箕村 茂・井本 立也・金品 昌志
25	S. 59. 11. 28-30	筑波・筑波大学第三学群	若槻 雅男	佐々木 泰三・下村 理
26	S. 60. 10. 21-23	徳島・徳島郷土文化會館	森吉 孝	坂部 孜・秋本 俊一
27	S. 61. 10. 13-15	札幌・北大学術交流會館	箕村 茂	蒔田 董・庄野 安彦
28	S. 62. 11. 4- 6	神戸・神戸国際會議場	蒔田 董	W. J. le Noble・渡部康一・辻一夫
29	S. 63. 11. 16-18	藤沢・婦人総合センター	渡部 康一	毛利 信男・高橋 信次
30	H. 1. 10. 16-18	仙台・戦災復興記念館	庄野 安彦	瀬高 信雄・高山 和喜

回	研 究 発 表 件 数								予稿集頁数		
	高压・技術 装置・材料	固体物性	固体反応	流体物性	流体反応	衝撃圧	D. B. N.	地球科学	計	本文	広告
1	1	2	0	6	11				20	2+ 78	
2	0	4	0	8	4				16	2+ 64	
3	0	1	1	7	11				20	3+173	
4	0	0	4	9	9				22	3+107	
5	4	0	2	7	15				28	2+ 91	
6	2	3	0	7	10				22	2+ 73	
7	1	1	4	9	15				30	3+ 93	
8	8	10	4	12	12				46	4+144	20(21)
9	17	6	9	14	14				60	4+168	18(18)
10	10	15	14	17	10				66	8+186	7( 7)
11	8	15	11	15	10				59	7+165	10( 9)
12	13	16	18	19	13				79	10+227	12(14)
13	10	22	12	16	9				69	3+203	9(11)
14	11	19	17	16	17				80	13+233	23(25)
15	15	39	15	20	21				110	6+331	16(20)
16	12	34	18	20	13				97	9+194	12(13)
17	9	26	18	19	14				86	9+176	25(30)
18	15	41	7	25	20				108	13+224	9(11)
19	25	39	18	24	17				123	12+246	9( 9)
20	12	42	27	24	17				122	14+258	21(22)
21	9	40	23	21	9	18			120	11+246	21(22)
22	13	40	22	17	20	1			113	10+242	18(21)
23	22	58	22	33	25	14			174	15+368	34(33)
24	17	47	25	34	18	9			150	17+322	24(23)
25	18	61	26	25	21	13			164	15+343	37(37)
26	25	56	12	21	13	16			143	15+307	41(40)
27	17	65	24	22	14	18			160	17+335	25(24)
28	23	72	25	34	14	22			180	19+397	44(41)
29	11	71	36	31	13	28			190	20+393	35(31)
30	24	57	9	29	15	18	33	29	214	23+451	34(31)

## ◇◇設立総会および第1回総会報告◇◇

平成元年10月17日(火)15時10分から仙台市戦災復興記念館2階ホールで開催した。出席者は104名であり、議案および議事の結果は次のとおりであった。

- 1) 学会設立に至る経緯、学会設立趣意書の成文に至る過程の報告
- 2) 本学会会則および細則に関する件(学会のしおり 2、3頁記載のとおり承認)
- 3) 1989年度会長、副会長、評議員、各幹事、会計監査役に関する件(学会のしおり4頁に記載のとおり承認)
- 4) 1989年度事業計画および予算に関する件(総会配布資料11頁に記載のとおり承認)
- 5) 1990年度高圧討論会開催地および高圧討論会準備委員長に関する件(学会のしおり4頁に記載のとおり承認)

## ◇◇第30回高圧討論会報告◇◇

準備委員長 庄野 安彦

第30回高圧討論会は1989年10月16日-18日の3日間にわたり、仙台市戦災復興記念館を会場として開催された。仙台で高圧討論会が開催されるのは1989年秋以来11年ぶりであり、また、今回は日本高圧力学会の設立総会が予定されていたこともあって、320名の多数の参加をいただいた。講演数も一般講演209件に達し、プログラム編成にだいぶ苦心した。当初予定した4会場3日間の日程に収めるには講演時間を20分から18分(内討論時間5分)に短縮せざるを得なかった。それでも第1日は夜7時30分までのプログラムを組む強行日程となった。

今回は特別講演として、瀬高無機材研所長による「ダイヤモンドの気相合成と高圧合成の接点」、および、高山東北大流体研衝撃工学センター長による「高圧科学への衝撃波現象の応用」の2講演が、2日目午後記念ホールにおいて、日本高圧力学会設立総会に先だって行なわれた。また、今回は特別企画として、最近特に注目を集めている単結晶あるいは焼結ダイヤモンドおよびBNに関するシンポジウムを島田・大谷両準備委員に立案して頂き、合成の立場から筑波大若槻、住友電工矢津の両氏、利用の立場から東大物性研八木、阪大基礎工遠藤の両氏に講演をお願いした。これに伴い、一般講演のプログラム編成においても、ダイヤモンド・BNセッションを設け、固体反応および衝撃圧の両分野の研究者が討論できる場とした。さらに、従来固体物性および反応にまたがっていた地球科学関連の講演を一つにまとめたが、このセッションは会場が溢れる盛況であった。固体物性の分野は相変わらず



講演数が多く、分野内のパラレルセッションを取らざるを得なかった。とくに、ダイヤモンドアンビルセルを用いた光、赤外、ラマン散乱実験が数多く発表され、また、高温超伝導酸化物の圧力効果や高圧処理の講演も目立った。流体物性・反応分野では、社会的な関心をもたれているフロン代替物質の高圧物性や、生体関連物質の圧力効果等が中心テーマであったように思われる。

今回の高圧討論会の開催にあたっては、日本化学会、日本材料学会を始めとする32学協会に共催・協賛をいただき、また、30事業所から講演要旨集に広告を掲載して頂いた。又東北大非水研高橋先生はじめ準備委員の方々のご協力のおかげで無事終えることができた。実施に当たっては準備委員会の会合の回数を極力減らし省力化に努めると共に、費用の軽減を図るため、講演要旨集原稿を原則としてA4判ワープロ原稿に規格を統一することを試みた。これにより、原稿用紙の発送の手間をはぶいた。この他プログラムの発送や座長へのお礼状などを省略したことをご了承頂きたい。

来年度からは日本高圧力学会の発足により学会主催の討論会が初めて開かれることになる。幸い準備委員長を阪大教養の久米先生がお引き受けくださり、豊中キャンパスの強力スタッフを中心として討論会の開催計画が進められることと思う。次回の討論会のますますの盛会を祈って、この報告の筆を置きたい。

◇◇第31回高圧討論会の開催にあたって◇◇

準備委員会委員長 久米 昭一

1990年の高圧討論会を大阪でお引受けすることになりました。手元にある15年間の要旨集に目を通しましたが、この間、当地では開かれておりませんので、随分久し振り、ひょっとすると初めての開催かも知れません。そこで、是非大勢の方に参加して頂こうと考えたのですが、会場（大阪国際交流会館）の都合で11月19～21日と例年より少し遅い時期になってしまいました。でも紅葉は多分見頃。23日は休日でもあります。ついでに、浪速の晩秋もお楽しみ下さい。.....忙中有閑。

今回の会に特にアンダーラインを引くとすれば、それは昨年発足した高圧力学会が主催する第1回の討論会だということでしょう。運営委員には学会幹事にも加わって頂きましたので、地元としては学会が企画された枠組みのなかで手落ちのないよう準備を進めるつもりです。ご意見等ございましたら、私宛にお知らせ下さい。できるだけご希望に沿いたいと考えております。

では、11月にお会いしましょう。

連絡先： 〒560 豊中市待兼山町1-1 大阪大学教養部地学科  
久米研究室内 第31回高圧討論会準備委員会  
TEL.06-844-1151(ext. 5300)

## 重点領域研究（文部省科学研究費）”地球中心核”発足

—焼結ダイヤモンドアンピルの実用化をめざして—

東京大学物性研究所 八木 健彦

マルチアンビル型の超高压発生装置は、ダイヤモンドアンビルでは不可能な大容積の試料を均一に加熱できるという利点を生かして、特に地球科学や物質科学の分野の超高压実験に広く使われ、最近では欧米の研究機関にも多く輸出されている。しかし超硬合金製のアンビルを使う限り、アンビルの強度から 25 GPa程度が発生圧の限界であった。この壁を打ち破るために、より硬い焼結ダイヤモンドをアンビル材として用いる試みが種々なされてきたが、焼結ダイヤモンドの加工法やアンビル材としての特性、価格などがネックとなって、なかなか実用化するにはいたっていないのが現状である。

一方地球の内部構造の研究はより深部へと向かい、最近では下部マントルから核への領域が大きな研究対象となってきた。このような領域は、メガパールの圧力の世界であり、そこに存在する物質やその物性は、われわれが地表で見えるものとはきわめて様相を異にする。たとえば下部マントルを構成する主要鉱物は、地表では全く見られないペロフスカイト型のケイ酸塩であろうということが、高温高压実験にもとづいた研究により明らかにされてきた。温度圧力条件だけを取り上げれば、ダイヤモンドアンビルを用いてすでに地球の核の条件が実験室内で再現されているが、試料室が極端に小さく、レーザーによる局部加熱しかできないため、地球科学の研究に必要な多成分系の試料を均一に高温高压状態にする事はまだ不可能である。

このような情勢を背景に、平成2年度から3年計画で、”地球中心核”と題する文部省科学研究費の重点領域研究課題がスタートすることになった。これは、地球電磁気学、地震学などにもとづく地球物理学的観測や理論と、超高压実験や地球化学的実験とを総合して、地球中心核の構造とダイナミクスを明らかにしようという研究計画であり、高压実験グループも主要な柱の一つとして参加する。今回の高压グループの計画では、焼結ダイヤモンドアンビルの実用化とそれを用いた地球中心核関連物質の研究に主眼が置かれている。アンビル材として適した焼結ダイヤモンドの開発から、アンビルへの加工法、実験方法の開発に、メーカーの協力も得ながら集中して取り組む予定である。この計画により、マルチアンビル装置の発生圧力の壁が破られ、地球中心核の研究においても、特色ある研究が展開されることが期待される。なおこの重点領域研究では、計画研究だけでなく公募研究も行われる予定であり、興味ある方の積極的な参加が望まれる。

## 次世代大型X線光源研究会WGSGから

慶応義塾大学理工学部 辻 和彦

高エネルギー物理学研究所放射光実験施設（フォトンファクトリー、PF）に設置されているマルチアンビル型高温高圧X線実験装置（MAX80）や、ダイヤモンドアンビル型超高圧装置と、放射光からの高輝度高エネルギーX線との組合せによる実験は多くの成果をあげているが、PFを上回る次世代大型X線光源の計画が具体化し、その建設が開始されようとしている。とくに、兵庫県が開発しているテクノポリス「播磨科学公園都市」に科学技術庁が建設する予定の8GeVリング（Spring-8）は1995年利用開始を目指して準備が進められている。

このような情勢をふまえて、大型のシンクロトロン放射X線光源に関心を持ち、放射光科学の発展を願う全国の研究者が、大型X線光源の実現にall Japanの態勢で取り組もうという趣旨で「次世代大型X線光源研究会」が発足した。研究会は、フォトンファクトリーを中心に培われてきたポテンシャルを最大限にこの計画に生かして、最高級のレベルの施設の実現に協力し、高度の放射光利用実験の実施を目指して活動している。このため利用ワーキンググループ（WG）がつけられ、利用課題別のサブグループ（SG）が多数組織された。「超高圧」は極端条件SGの一つの班として位置づけられている。超高圧班は1989年2月に暫定的な構成メンバーで編成され、1989年には以下のような活動を行なっている。

2月、班会合、参加者11名、6月、班会合、参加者7名、8月、アンケート、9月、班会合、参加者12名、10月、班会合、参加者10名、10月、インフォーマルミーティング、12月、班会合、参加者13名

関心のある方の積極的な参加やご意見を待っている。

連絡先：「超高圧」班世話人：浜谷 望（筑波大物質工）

「極端条件」SG世話人：辻 和彦（慶応大理工）

なお、この研究会は誰にでも開かれた任意団体である。次世代大型X線光源に関する情報と研究会の活動状況を伝える広報誌「サーキュラー」を発行しているので、関心をお持ちの方は請求先に連絡されたい。

「サーキュラー」請求先：藤井保彦 305茨城県つくば市天王台  
1-1-1 筑波大学物質工学系

参考文献 1) 日本物理学会誌44 (1989) 787、 2) 日本放射光学会誌2 (1) (1989) 78、 3) 日本放射光学会誌2 (4) (1989) 83.

## 掲示板

### ◆第75回材料セミナー「食品への高圧力の利用」のお知らせ◆

主催： 日本材料学会、同高圧力部門委員会

協賛： 日本高圧力学会

日時： 平成2年6月22日(水)、午後2時～5時

会場： 日本材料学会 三階大会議室

〒606 京都市左京区吉田泉殿町1-101

TEL (075) 761-5321

テーマおよび講師

本セミナーでは、最近大きな期待を集めている食品の加工・殺菌・保蔵に対する高圧力の利用について、最近の研究とそれに関連する装置の開発状況について、次の二件の講演を企画しました。

1) 食品の加工、保蔵への高圧利用

京都大学食糧科学研究所 林 力丸

2) 高圧加工食品のための高圧装置の仕組みと今後の展望

三菱重工広島製作所 堀 恵一

参加費 会員 2000円 非会員 3000円

学生会員 無料 学生非会員 1000円

参加方法 はがきに「第75回材料セミナー参加」と記し、氏名、勤務先、連絡先を明記して、開催の5日前までに 〒606 京都市左京区吉田泉殿町1-101 日本材料学会宛お申し込み下さい。参加費は当日会場で申し受けます。

### ◆The 1990 Gordon Conference on Research at High Pressure◆

June 25-29, 1990, Kimball Union Academy,

Meriden, New Hampshire, U.S.A.

連絡先： 小野寺昭史（大阪大学基礎工学部）

◆IV INTERNATIONAL CONFERENCE◆

ON "HIGH PRESSURE IN SEMICONDUCTOR PHYSICS"

AUGUST 12-13, 1990, HALKIDIKI, PORTO CARRAS, GREECE

SATELLITE CONFERENCE of 20th International Conference  
on the Physics of Semiconductors, Thessaloniki, 1990

The main topics of the conference are: 1. Band structures,  
2. Defect states, 3. Low dimensional systems, 4. Lattice dynamics,  
5. Phase transitions, 6. High pressure technology of semiconducting  
materials, 7. New high pressure experimental techniques.

Dead line of ABSTRACTS: April 15, 1990

連絡先: 箕村 茂 (岡山理科大学)

◆The 3rd Meeting of CODATA Task Group◆

on Survey of Data Sources in East-Asian Countries

東アジアのデータソース調査に関する国際集会在1990年3月1日~3日に京都国際会館で開催される。

第一回集会は1987年10月東京で、第二回集会は1988年11月北京で開かれ、今回は10ヶ国から20余名の参加者がある予定で、各国に於けるデータ活動の実状を話し合い、既存の極東 Data Source Directory [CODATA Bull., 21巻 3号 (1989)] の拡充と、各国間のデータ活動の Network の樹立を目的として討議をすることになっている。ご興味のある方は本会事務局までご連絡下さい。

◆International Symposium on Thermodynamic Data Systematics◆

A 4-days meeting is planned to be held in the vicinity of Uppsala and some time during the second or third week in June, 1990.

The specific topics are: 1. Metamorphic Phase Equilibria, 2. High-temperature and High-pressure Phase Equilibria (Piston-Cylinder, Large-Volume Press and Diamond-Anvil), 3. New Data from Calorimetric Measurements and Other P-V-T measurements on metals, solids and melts, 4. Methods and Results of Recent Assessments of Thermodynamic Data, 5. Calculation of Thermodynamic Properties of Solids, Melts and Fluids.

連絡先: 久米昭一 (大阪大学教養部)

## ニュースレター原稿募集

編集委員会ではニュースレターの原稿を募集しています。会員の身近での出来事や、他の会員に知らせたほうが良いと思われることなど何でもかまいません。どしどしお送り下さい。原稿は次の「書き方」を参考にして執筆願います。ニュースレターは当分の間、年4回の発行を予定しています。

日本高圧力学会ニュースレター「原稿の書き方」

1. 和文ワープロのソフトは「一太郎 (V. 3.0)」または「QUEENⅢ」とする。(その他のワープロソフトを希望される方は編集幹事にご相談下さい。)
2. 原稿はフロッピーディスク (3.5" 2HD, 5" 2HD, 8" 2D, 3.5" 2DDのいずれか) と打ち出した原稿のセットを、編集幹事 (送付先は下記参照) に送付する。原稿は編集後執筆者に返却する。
3. 原稿の書式は以下のとおり。
  - イ. 用紙のサイズはB5 (横182mm×縦257mm) とする。  
(マージンは上端22mm, 下端25mm, 左端20mm, 右端20mmを標準とする)
  - ロ. 字数は {全角34文字 (半角68文字) / 行} × {35行 / ページ} = 全角1190文字 / ページとする。
  - ハ. ページは執筆者が仮ページを下部に鉛筆で記入する。
  - ニ. 写真、イラストの添付があるときは、原稿に適当な空欄 (ウィンドウ) を設けておく。(全角文字1字につき横4mm×縦6mmとして計算する)

原稿送付先

〒223 横浜市港北区日吉3-14-1  
慶応義塾大学理工学部物理学科  
辻 和彦

編集委員会委員 辻 和彦・慶応大理工、 中原 勝・京大理、  
小平紘平・北大工、 久保田博信・神戸大工、  
高橋信次・東北大非水研、 野村基之・広島大理、  
山岡信夫・科技厅無機材研、 松重和美・九大工、  
毛利信男・東大物性研、 巨海玄道・熊本大教養

## 日本高圧力学会への入会のご案内

### 1) 入会資格

高圧力下の科学と技術およびこれと密接に関連した分野に興味をもち、本会の趣旨に賛同される個人および法人。会員には 正会員、学生会員および賛助会員があります。賛助会員については事務局へお問い合わせ下さい。

### 2) 年会費

正会員 年額 3000円

学生会員 年額 2000円

賛助会員 年額 (1口) 50000円

(個人会員は、入会時に年会費とは別に入会金2000円を納入していただきますが、平成2年(1990年)8月31日までにご入会の場合に限り、入会金を免除させていただきます)

### 3) 会員へのサービス

a) 高圧討論会講演要旨集一冊を差上げます。

b) ニュースレター、学会活動に関する情報・資料などを無料で配布いたします。

c) 本会が行う事業について優先的に便宜をおはかりします。

### 4) 入会申込の方法

入会申込用紙に必要事項をご記入のうえ、事務局までお送り下さい。受理の決定は幹事会にご一任下さい。

### 5) 事務局

〒606 京都市左京区下鴨森本町15

(財) 生産開発科学研究所内

TEL/FAX (075)721-0376

(銀行口座) 富士銀行 出町支店(普) 437-1409296

(郵便振替) 京都 8-48066

### 6) お問い合わせ先

(東京) 東京工大・・・ 福長 脩 (渉外幹事)

TEL (03)726-1111 内線 2520

FAX (03)729-0393

(神戸) 神戸大学・・・ 田中 嘉之 (庶務幹事)

TEL(078)881-1212 内線 5251

FAX(078)802-3564